
勇者と魔王は脇役です。(仮)

志乃 悠

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

勇者と魔王は脇役です。（仮）

【Nコード】

N7619X

【作者名】

志乃 悠

【あらすじ】

自分がこの世界の住人ではない気がする。

そんなことを思いながら日常を過ごしている。

そして16歳の誕生日を迎えたある日、使用人たちからとんでもないことを言われる。

異世界転移物の小説です。

題名は仮です

うまく書けているかわからないので質問・疑問がありましたらメッセージをくれると助かります。

不定期更新です

登場人物

自分がこの世界の住人ではない気がする。

そんなことを思いながら日常を過ごしている。

そして16歳の誕生日を迎えたある日、使用人たちからとんでもないことを言われる。

異世界転移物の小説です。

うまく書けているかわからないので質問・疑問がありましたらメッセージをくれると助かります。

主人公

伊村 直人 いむら なおと

性別：男

年齢：16歳

種族：人と魔人のハーフ

身長：175cm

体重：55kg

備考：真面目で必要なこと意外あまりしゃべらない。

六歳より以前の記憶がない。

使用人二人とペット一匹と武家屋敷みたいところで暮らしている。

使用人1

アカネ・木乃葉 このは

性別：女

年齢：16歳

種族：人と魔人のクォーター

身長：160cm

体重：48kg

武器：靈雷刀『千鳥』

備考：会話はほとんど丁寧語。

昔から直人に仕えている。

使用人2

カリスト・オーガニック

性別：男

年齢：44歳

種族：獣人（ライオン）

身長：180cm

体重：67kg

武器：風神双槌『ヤグルシとアイムール』

備考：アカネの師匠。

ペット

コロ

本名：コロナ・イースト

性別：男の娘

年齢：？

種族：獣人（犬）

身長：130cm（人間時）

体重：30kg

武器：杖『ケリリユーケイオン』

備考：普段は犬の姿をしているがあちらの世界では犬妖精族の姿をしている。

甘えん坊な性格。

登場人物（後書き）

容姿は皆さんの想像にお任せします。

第零話 俺の誕生日は3/28だ。

3/27

もうすぐ春休みが終わり、高校一年になる。

そういえば使用人たちが朝から忙しそうだ。

俺は起こされるなり、金を渡され、午後八時まで戻ってこないでくださいと言われた。

一樣、主なのだが・・・まあ、そんなことはともかく暇なので図書館にでも行こうと思う・・・

そして午後八時。

家の前に着くと家の中からもやらいつもと違うような感じがした。ここで立ち止まっているわけにも行かず、渋々と中に入っていった。家の中に入ると、いつもより暗く大広間といわれるところだけ明かりがついていた。

「ただいま・・・!!」

大広間の襖ふすまを開けるとそこには外国人っぽい人と使用人、合わせて八人が横に並んで座っている。

使用人たちもいつも着ていた服ではなく、変わった服装になっていた。

「お帰りなさいませ、我が主。

突然の事だと驚かれていますと思いますがどうぞこちらにお座りください」と言われ、

俺は八人の並んでいる前に座らせられた。

「アカネ、説明はしてくれるのだろう」

「はい。今、主の前に並んでいる私も合わせて八人は主の家臣でございます」

「家臣・・・？俺は犬耳生えた奴や角が生えている奴を家臣だとは思いたくないぞ」

「その説明はこれからします。まず最初に、主はこの世界の人ではありません。」

「向こうの世界『アレグリアス』の住人なのです」

「待て、多分ここから長い話がお前からされると思うのだが？」

「はい、そのとおりです」

「俺が質問するからお前がそれに答えろ」

「はい、我が主」

「まず一つ目、アレグリアスとはなんだ？」

「はい、アレグリアスとはこの世界とは別の世界、魔法があり、多種族が暮らす世界です」

「二つ目、目の前にいるお前を含めた八人はあちらの世界の住人って事だな？」

「はい、そのとおりです」

「三つ目、お前らは俺に何をさせたい？」

この質問をすると目の前の八人は少し動揺した。

「さすが主でございます。そこまで読み取られるとは」

「こんな風に場を用意されたら嫌でも分かるわ。しかも俺の誕生日と関係あるのか？」

「さすがです。もはや言うことは何もないと思われませんが？」

「早く言え、主の命令だぞ」

「失礼しました。少し話が長くなりますがよろしいですか？」

「ああ、構わない」

そういつとアカネは話し始めた。

第零話 俺の誕生日は3/28だ。(後書き)

感想、お待ちしております。

第一話 アカネの話

アカネの話はまず俺の過去の話から始まった。

俺の両親、先代はある国の王と王妃だった。

その国は他の国とは違い、知性のある魔物「魔人」と共生している国だった。

その国は他国より裕福ではなかったが幸福が一番ある国でもあった。ある日のこと、いつものように仕事や家事に励む人々、こうして毎日が過ぎると思われたが違った。

他国が侵略してきたのだ。

正直、一国だけなら退けることが出来たかもしれないが他国のほとんどが攻めてきたのだ。

何故、この国だけが攻められたのか・・・理由は簡単である。魔王が復活したからである。魔王とはこの世界を破滅へと導く死神なのである。

そして魔人と共生しているこの国が原因と言われ、攻められた。国が堕ちるのも簡単だった。

数時間しないうちに王と王妃が捕らえられた。

そして公開処刑。

両親の死はあつけないものだ・・・

残った家臣とともに6歳の俺はこちらの世界に来たらしい。その時、俺の記憶は消されたらしい。

「そっか・・・やっぱりか・・・」

「主様……」

「で、俺にやってほしいことは自国の復興。もう一度あの幸福がほしいからとっ」

「はい、そういうことでございます。先代の血を引いている主なら

俺はこのとき、すでに答えは決まっていた……

『嫌だ』

「……はい？」と言ってアカネは呆然としている。

「何故、俺がそちらの世界のことをやらなくてはならない。そんなこと人に押し付けず、自分たちでやれ、俺の平和な日常を壊すな」

「ですが、主様の力が必要なんです」

「すまんが俺は高校生活を送らなきゃならないんでね」

「どうしても駄目ですか……」

アカネが涙目で見てくる。

やばい、泣かせてしまう・・・他の奴ら知らない振り・・・

「少し考えさせてくれ」

「はい」

そう言って今日は解散した。

第一話 アカネの話（後書き）

感想、お待ちしております。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7619x/>

勇者と魔王は脇役です。（仮）

2011年10月21日04時04分発行